

## 関西学院大学考古学研究会寄贈資料

### —仁川五ヶ山古墳群第2号墳石棺資料—

山田 暁 (当館)

#### 1. はじめに

西宮市立郷土資料館（以下、当館）では、古文書や民俗資料、考古資料など西宮地域の歴史に関わる資料を寄贈・寄託などにより収集している。収集した資料は、特徴や形状、サイズなどを細かく記録し、資料がどのようなものなのかを調査研究を行い、その成果を展示や刊行物などで公開・周知に努めている。

本稿では、関西学院大学考古学研究会（以下、研究会）から寄贈を受けた仁川五ヶ山古墳群第2号墳石棺資料を紹介するとともに、石棺形態の復元について検討する。

#### 2. 研究会の活動と寄贈資料

関西学院大学と研究会は西宮地域で発掘調査や分布調査などを実施してきた。発掘調査では仁川五ヶ山遺跡、分布調査等では山口地域、徳川大坂城東六甲採石場の甲山刻印群E地区、甲陽園東山町、六軒町、苦楽園二番町、山口町名来、甲風園1丁目等の実績がある。甲風園1丁目の調査では、弥生時代前期の土器が採集され、「甲風園遺跡」として新たに周知の埋蔵文化財包蔵地が認定された（折井・坂井 1978）。

令和元年（2019）、研究会から上記調査で出土・採集した考古資料の寄贈申請があった。寄贈資料の中には西宮市指定史跡である関西学院構内古墳出土資料（須恵器・土師器・鉄製品類など）、仁川五ヶ山古墳群第2号墳出土資料（須恵器・土師器・石棺材など）、青石古墳出土資料（鉄製品・土器片）が含まれている。

このように、研究会寄贈資料は本市にとって重要な考古資料であることから受領した。なお、移管の経緯については『関西学院考古』No.11 に詳述され、当館寄贈のリストも掲載されている（金岡他 2022）。

### 3. 仁川五ヶ山古墳群第2号墳第1次調査出土石棺資料と研究会寄贈資料（石棺資料）

#### (1) 仁川五ヶ山古墳群第2号墳第一次調査出土石棺資料（『西宮市史掲載』）

昭和36年（1961）、『西宮市史』編纂事業の一環として関西学院大学の武藤誠教授（当時当市文化財保護委員会）と同大学学生によって仁川五ヶ山古墳群第2号墳の発掘調査（第1次調査）が実施された（武藤1967）。その後、平成8年（1996）に西宮市教育委員会が保存措置にともなう発掘調査（第2次調査）を行っている（西宮市教委2000）。これらの調査によって、墳丘規模や横穴式石室の構造、副葬品の内容が明らかになった。また、出土遺物（須恵器）から7世紀中頃に築造されたとされている（西宮市立郷土資料館2022）。

第1次調査時、埋葬施設である横穴式石室内部から石棺材が出土した。この石棺材は玄室の中央部から奥壁部で出土し、大きく破損していたため破片資料となっている（図1）。底石には、断面が凹字の溝が施され、加工痕が明瞭に認められる。底石と側石が接触する部分では突起が造り出され、凹字状の溝に嵌入できるようになっている。さらには、側石や底石にベンガラ（赤色顔料）が塗布されていることが見受けられる。また、チョウナ等の工具で石材を削り出した痕跡などが確認されている。



図1 『西宮市史』掲載仁川五ヶ山古墳群第2号墳第1次調査出土石棺資料

これらの観察によって、石棺は組合式家形石棺であり、石棺石材は神戸層群の凝灰質砂岩であると鑑定された（武藤 1967）。

## （2）研究会寄贈資料（石棺資料）

今回、研究会寄贈資料の中に市史掲載以外の石棺材が認められた。石棺資料は84点あり、そのうち凶化作成及び加工痕が施された資料は15点（図2・3・4）で、この資料を中心に紹介し検討を行う。

### 底石

研究会寄贈資料で石棺の底石と推定できるのは、資料6・9・12・13・14・15である。これらの資料は、石棺材を嵌め込むための段差のような加工が施されている。これらの加工は側石に施されることもあるが、多くの場合底石に施される。このことから上記の資料は石棺の底石である可能性が高いと判断できる。

なお加工痕が認められないものの、資料6はその他底石と同様に11.0cm程度の厚みを有していることや、コーナー部の破片であると考えられることから底石と判断した。

### 蓋石

資料10・11は断面形態がアーチ状になっていることから蓋石と考えられる。したがって、蓋石は扁平なモノでなく、断面が蒲鉾状となりアーチ中央部に厚みがある形態であったと想定できる。

### 小口石・側石

上記の以外の石棺資料は、側石と小口石と考えられる。ただし、これらには石棺材の厚みがある資料（資料1・2・3・4・8）と薄い資料（資料5・7）に区分でき、前者の厚みが14.0cm～15.0cmで、後者は6.0cm～7.0cmである。このことから、両者は異なる部位であると推定できる。

また詳しく観察すると、前者の資料1・2・7には面取りの加工が施されていることが見出せる。このことから、両者は異なる部位の石材と考えられ前者が小口石、後者が側石であると推定できる。小口石と側石の厚みが異なる事例は、同じ神戸層群凝灰質砂岩製の兵庫県尼崎市御園古墳石棺にも認められる。その他にも産出石材が異なる石棺では小口石よりも側石の方が厚い事例もある。また、小口石・側石には断面が凹字の溝は認められず、底石のみにこのような加工が施されている可能性が高い。

以上全体として、石棺資料は破片資料であるものの、部位が推定できる。さらに石材同士を結合するための加工や石棺の製作にともなうチョウナ等の工具痕跡が各部位に認め

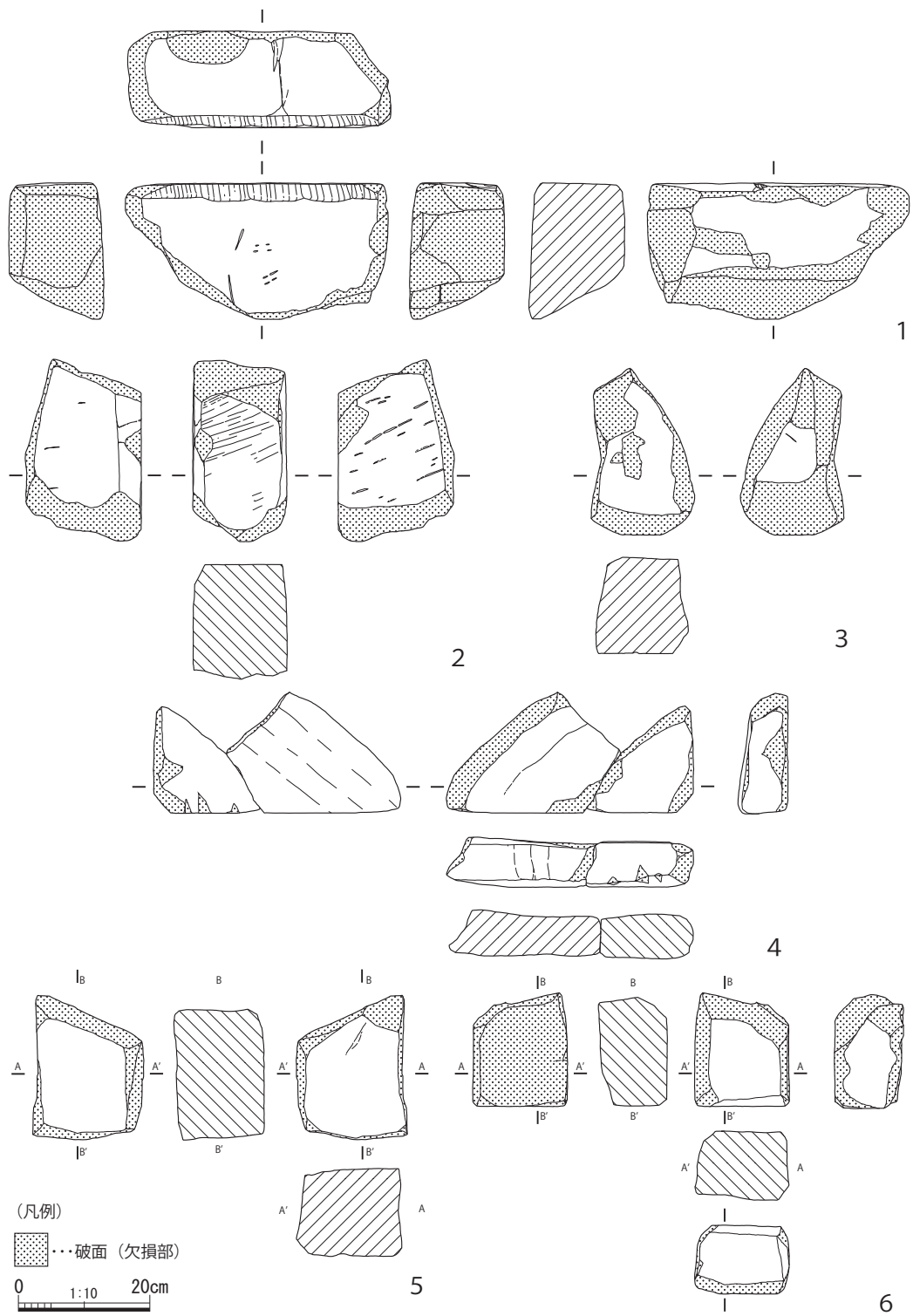


図2 研究会寄贈資料 (石棺資料) 1

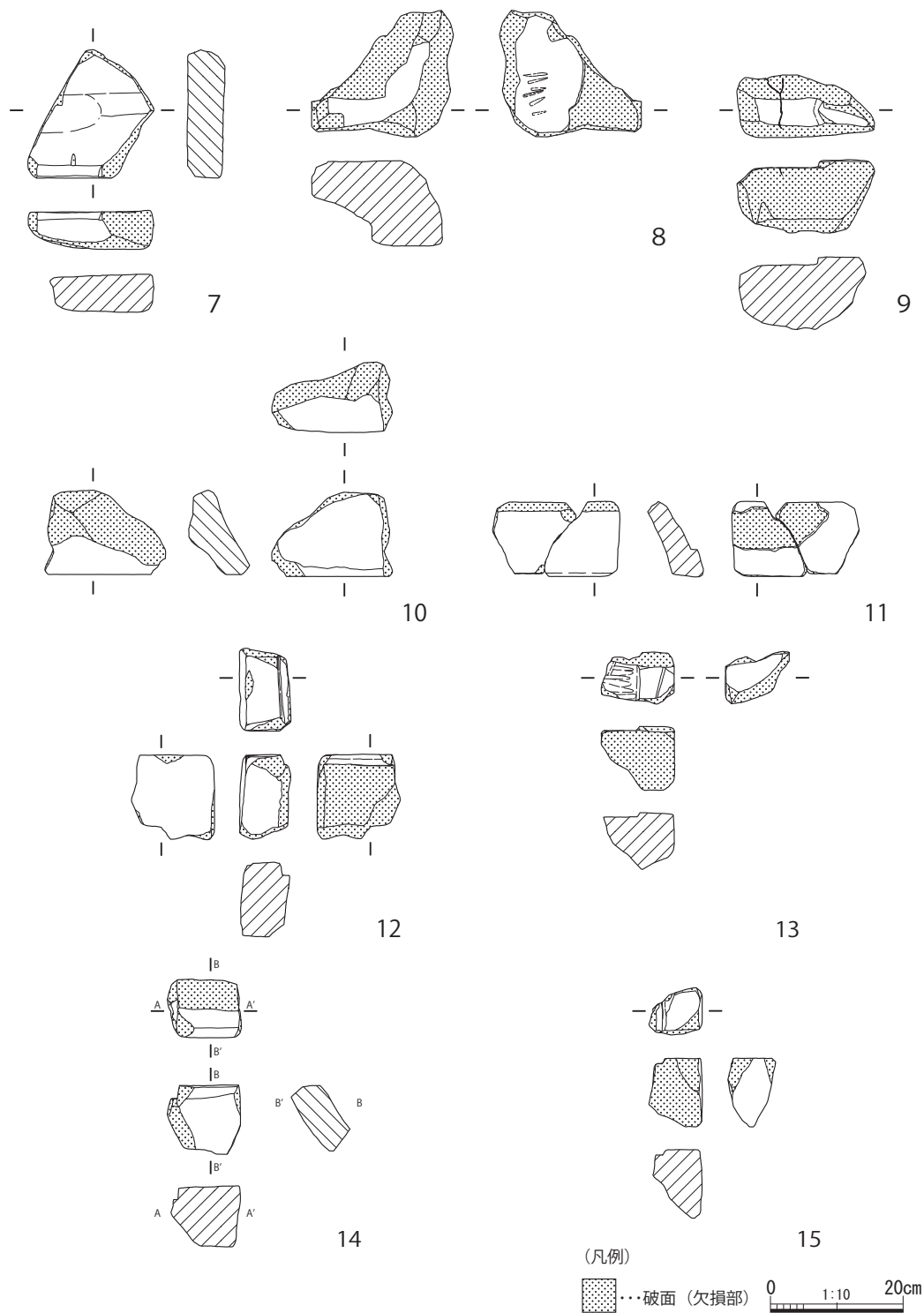
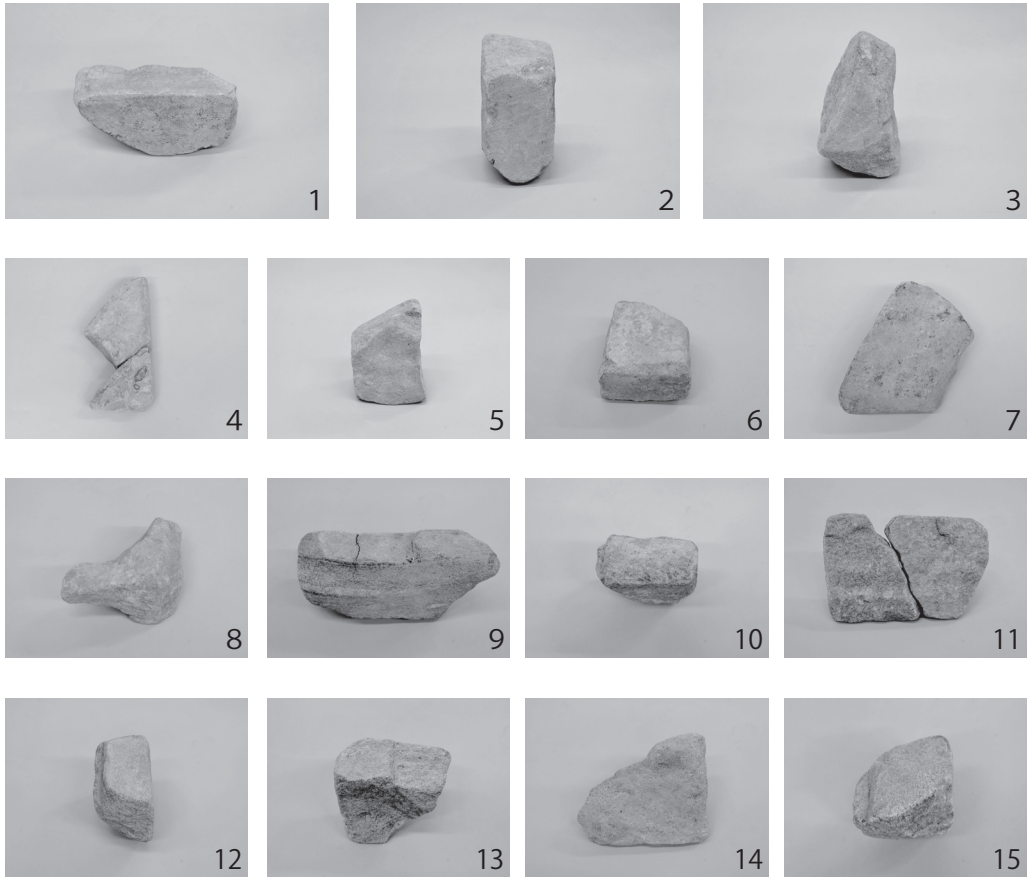


図3 研究会寄贈資料 (石棺資料) 2



※(番号は図面と対応)

図4 研究会寄贈資料(石棺資料) 3

られた。

#### 4. 仁川五ヶ山古墳群第2号墳石棺の推定復元

今まで西宮市史掲載の石棺資料から底石の形状や石材同士の結合技法について検討されてきたが、全体の石棺形状や形態などについては石棺の部位把握が不確定なため復元できなかった。しかし、今回の研究会資料を丹念に観察した結果、組合式家形石棺が構成される部位(蓋石・底石・小口石・側石)が認められ、かつそれらの特徴を見出すことができた。もちろん規模や側石や底石の石材の個数、側石と側石の結合技法の詳細など不明な点も多いが、大まかな形態の復元を行うことは可能であり、これらの資料を整理した結果、図5のような一般的な組合式家形石棺と同様の石棺形態であったと考えられる。

仁川五ヶ山古墳群第2号墳石棺の特徴として、①蓋石が扁平でないこと、②底石と側石との結合に有溝技法(和田 1976)が施されること、③小口石と側石で厚みが異なること、

が挙げられる。

神戸層群凝灰質砂岩製の石棺は、図6のように遠隔地の古墳にも使用されている（日本考古学協会 2010）。しかしながら、大阪府北部や大阪府東南部ではこの神戸層群凝灰質砂岩が産出されないことから、詳細は不明ながら石材または石棺材が輸送されたことは明らかである。

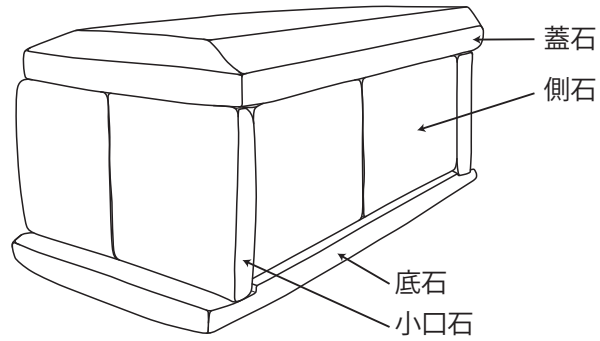
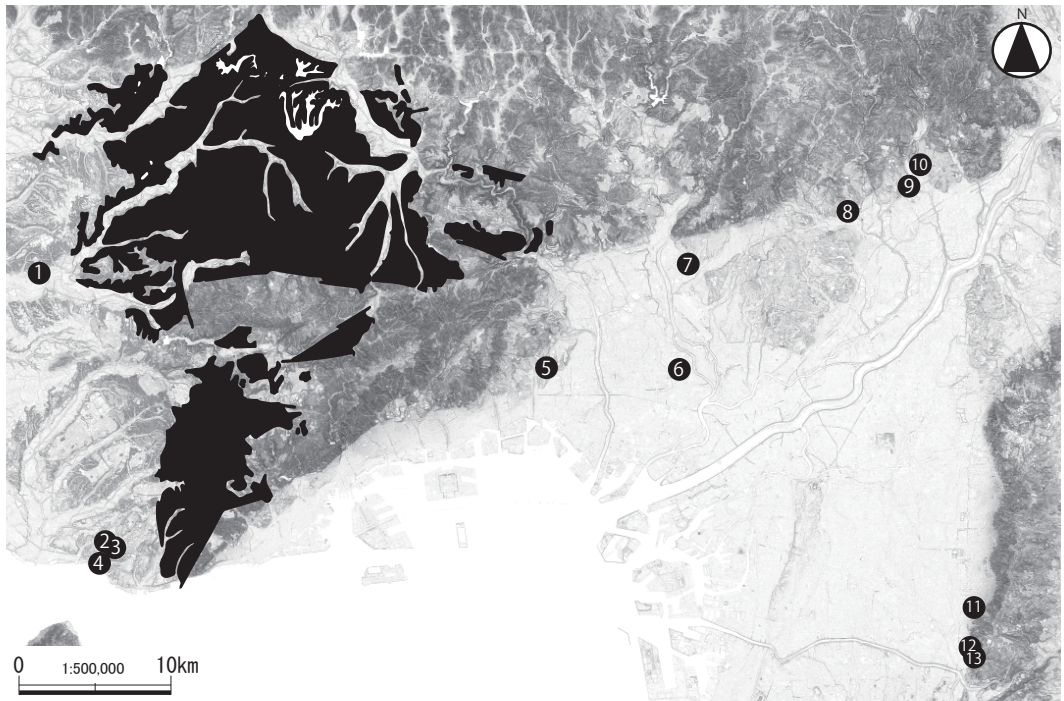


図5 仁川五ヶ山古墳群第2号墳組合式家形石棺の推定復元案

神戸層群凝灰質砂岩の産出地やその石棺製作集団については議論があるものの、今回の仁川五ヶ山古墳群第2号石棺の推定復元案を提示したことで、今後製作技術の比較検討



- |                       |                   |                       |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|
| 1 加佐古墳群1号墳            | 2 多間古墳群大塚ヶ平支群15号墳 | 3 多間古墳群深谷支群1号墳        |
| 4 狩口台きつね塚古墳           | 5 仁川五ヶ山古墳群2号墳     | 6 御園古墳                |
| 7 鉢塚古墳3 多間古墳群深谷支群1号墳  | 8 新屋古墳群26号墳       | 9 塚穴古墳群4b号墳           |
| 10 塚脇古墳群12号墳          | 11 高安郡川古墳群1号墳     | 12 平尾山平野・大泉古墳群11支群4号墳 |
| 13 平尾山平野・大泉古墳群20支群3号墳 |                   | 13 平尾山平野・大泉古墳群20支群3号墳 |
- ・・・神戸層群分布域 (前田 1989)

図6 神戸層群凝灰質砂岩製石棺の分布

のみならず、形態的特徴からの比較検討も可能となる。しかしながら、神戸層群凝灰質砂岩製石棺の事例数は多様な石棺の形態が認められ、底石と小口石・側石を結合するために使用される技法も統一していない。このことから、神戸層群凝灰質砂岩製組合式家形石棺の製作集団は複数存在したと考えられ、古神戸湖を取り巻くように各地域で石棺が製作されていたと推定される。

今後はこれらの石棺製作集団の実態や、石棺の形態及び石棺の製作技術の比較検討を行うことで古墳時代後期後半における神戸層群凝灰質砂岩製石棺製作集団や仁川五ヶ山古墳群の造墓集団にかかる地域間交流を明らかにすることが可能となっていくだろう。これらについては今後の課題となる。

### 参考文献

- 折井千枝子・坂井秀弥、1978年、「西宮市甲風園採集の弥生式土器」『関西学院考古』、第4号、関西学院大学考古学研究会
- 金岡希世乃・藤原光平・高田祐一・関西学院大学考古学研究会、2022年、「関学考古研の部室移転に伴う所蔵資料保存と報告」『関西学院考古』、No.11、関西学院大学考古学研究会
- 西宮市立郷土資料館、2022年、『新西宮の文化財（改訂版）』、西宮市
- 西宮市教育委員会、2000年、『西宮市埋蔵文化財発掘調査報告書』西宮市文化財資料、第44号
- 日本考古学協会2010年度兵庫大会実行委員会、2010年、「石棺資料集成」『日本考古学協会2010年度兵庫大会研究発表資料集』
- 前田保夫、1989年、「被覆層の神戸層群」『新修神戸市史』、歴史編I自然・考古、神戸市
- 武藤誠、1967年、「埋蔵文化財調査記録」『西宮市史』、第7巻資料編4、西宮市
- 和田晴吾、1976年、「畿内の家形石棺」『史林』、第59巻第3号、史学研究会

---

## 目次 CONTENTS

関西学院大学考古学研究会寄贈資料—仁川五ヶ山古墳群第2号墳石棺資料—（山田暁）…1

---

西宮市立郷土資料館ニュース第55号 令和5年3月31日発行